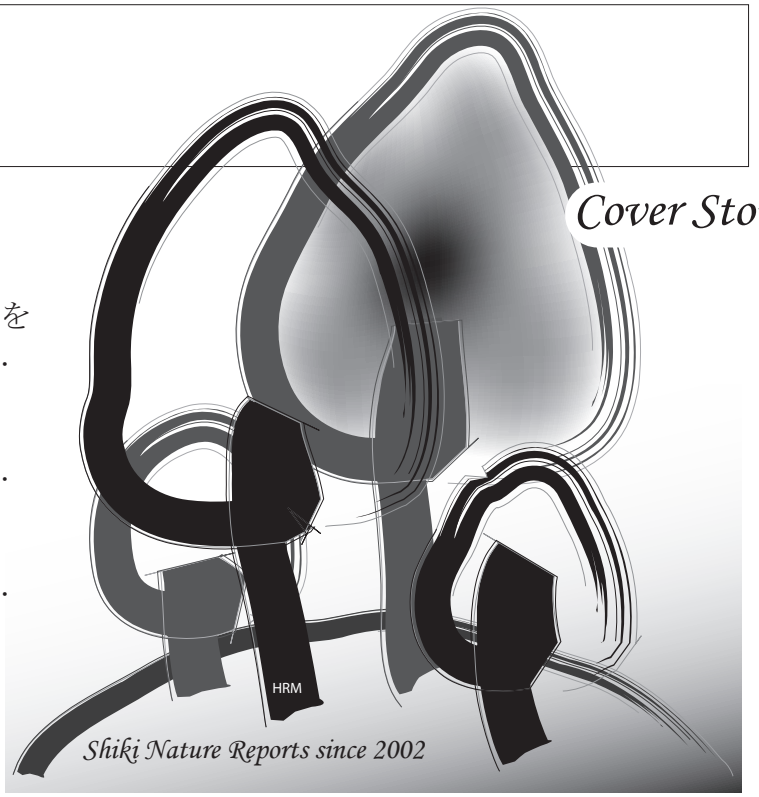
四季 −志木自然報告−
Shiki Seasonal Nature Reports 2025



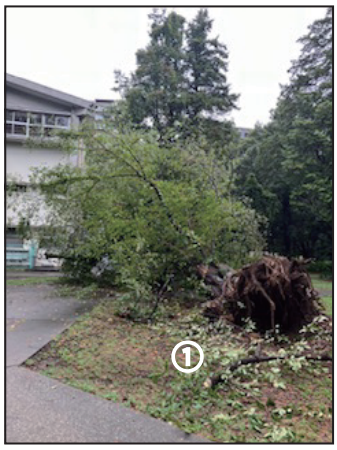
Cover Story

【倒木に思う】

先日の強風・強雨の翌日，体育館横の坂道を降りた正面にある桜，ソメイヨシノが倒れた．その七日後，すぐ隣に生えていたソメイヨシノが同じく倒れた．様々な可能性があると思うが，一つの可能性について考えてみたい．倒木に先立って，すぐそばに生えていたクヌギの巨木が伐採された．防風林の例を引くまでもなく，樹木は効果的な風除けとなり得る．強風によりすぐ隣のソメイヨシノが倒れた．さらに風通しが良くなり，先のソメイヨシノに隣接していた別のソメイヨシノが倒れた．

恣意的な思考であるが，伐採と倒木は無関係だろうか．考える必要がある．「木々が間引かれる．草地が広がる．裸地に変わる．表土が風雨で流される」．志木高が辿ろうとしているこのプロセスは，溶岩に覆われた火山島が緑に覆われていく過程＝『遷移』を逆行している．どうしたらよいのか．その場所に生きるものが考える問題である．

【倒木前のソメイヨシノ２本】



①2025.9.5（金）強風のため倒木

②2025.9.12（金）豪雨のため倒木

(Miyahashi)

Haiku

【薇閣高級中学訪問の句】

協定書調印を記念して

一句を閑していよよ爽やかに

台湾三田会の皆さんへ

かへり見て鵲の橋一礼す

(Maekita)

z/c 353-0004 埼玉県志木市本町4-14-1[tel: 048-471-1361]
慶應義塾志木高等学校

2025 年　秋 号（No. 093）
2025 年　9 月 27 日発行

よく分かる奈良時代のナゾ

Museum

とても残念なことに、今年度3年生の日本史は奈良時代に到達しない可能性が高いので、この誌面を借りて少しこの時代について紹介しておきたい。奈良時代は特別によく分かる面白い時代である。昔のことは昔になればなるほど分からなくなるのがふつうだが、日本史では、平安時代の初め（9世紀）よりも奈良時代（8世紀）の方がよく分かる。主な理由は二つ。一つはこの時代をカバーする『続日本紀』という歴史書が完存していること（その続きを記す『日本後紀』は全体の四分の一しか残っていない）。そして、もう一つが正倉院である。

正倉院とは「正倉」のある区画のことで、「正倉」とは役所の主要な倉庫のこと。奈良時代には役所ごとにあったのだが、そのほとんどは失われてしまい、残っているのは東大寺のものだけである。そのため、いまでは「正倉院」と言えば東大寺のそれを指す固有名詞になってしまった。ではなぜ残ったのか。東大寺の大仏を造らせた聖武天皇が亡くなった時、その遺愛の品を含む大量の宝物が大仏に献げられた。それらの宝物がこの倉に納められたことで、天皇の許しがないと開けることができない「勅封」の特別な倉になった。これがいわゆる「正倉院宝物」のはじまりで、この宝物の存在が、この倉を1,000年以上にわたって火事などから守ってきた人々の、強い動機になったことは想像に難くない。

正倉院宝物というと、螺鈿紫檀五絃琵琶（輝く貝殻と高級木材で装飾した中国製の楽器）などが有名だが、約9,000件ある「宝物」のすべてがキラキラした工芸品だというわけではない。東大寺の倉庫なので、儀式の道具なども納められていたし、容易に開かない特別な倉になったことで、ふつうであれば捨てられてしまうようなものもそのまま保存された。東大寺は天皇が造らせた公的な寺。そこではたくさんの役人が働いていて、彼らの休暇の申請書や借金の証文など、多くの書類も残った。しかもこれらは古くなって不要になった戸籍や決算報告書など、他の役所で作られ廃棄された行政文書の裏紙（リサイクルペーパー）に書かれた。裏も表も貴重な史料であるこれらを「正倉院文書」と呼ぶが、この正倉院文書によって、歴史書には載らない奈良時代人の日常に近づくことができるのだ。

この正倉院文書を含む、正倉院の様々な宝物を紹介する毎年恒例の展覧会が、まもなく奈良国立博物館で開催される。第77回正倉院展である（10月25日から11月10日まで）。約9,000件の宝物のうち、一回の展覧会で展示されるのは数十件。一度展示されたものは、以後10年は展示されないのが慣例で、毎年違う宝物に出会うことができる。私は2004年の第56回から毎年訪れているので、今年も行ければ22回目の正倉院展。日本の古代史について考えたければ正倉院展には必ず行くべし。私がおそらく最も忠実に守っている、大学時代のゼミの先生の教えである。

今年の目玉は、瑠璃杯（西方で作られた紺色のガラス器）、大仏完成の儀式で大仏に目を入れる時に使われたらしい特大の筆、名高い香木の「蘭奢待」など。ただ、正倉院展の面白いところは、開かずの倉だったおかげで残った、用途がよく分からないナゾの物品が展示されることである。それが何なのかを考えることで、これまで分かっていなかった奈良時代人の新たな一面に出会えるかも知れない。秋の展覧会シーズン、（今年でなくてもいつか）ぜひ奈良を訪れてほしい。

(Hara)

最高気温記録更新〈歴代１～５位を独占、群馬県伊勢崎で41.8℃〉

Meteorology

長く暑い季節がようやく過ぎました。2025年８月上旬の関東地方は特に暑かったです。志木でもついに「40℃超」になりました。そして2025夏、最高気温の全国歴代ランキングが大きく更新され、なんと1位～5位を独占しました。最高気温はこれまでの41.1℃（浜松、熊谷）を0.7℃上回る41.8℃（伊勢崎）です。これほどまでに更新されたことは過去に一度もありません。確実に地球は温暖化しているようです。

天気図は歴代1位を記録した8月5日12時のものです。この日は日本列島の南に高気圧、北に低気圧という典型的な「南高北低（夏型）」の気圧配置でした。北海道にある低気圧から日本海に伸びる前線に向かい、太平洋の高気圧から暖かい南風が日本列島に流入し気温が上昇しました。

表　最高気温の歴代ランキング
2025年9月23日現在

		地点	気温 ℃	起日
1	群馬県	伊勢崎	41.8	2025年8月5日
2	静岡県	静岡	41.4	2025年8月6日
2	埼玉県	鳩山	41.4	2025年8月5日
4	群馬県	桐生	41.2	2025年8月5日
4	兵庫県	柏原	41.2	2025年7月30日
6	静岡県	浜松	41.1	2020年8月17日
6	埼玉県	熊谷	41.1	2018年7月23日
8	群馬県	前橋	41.0	2025年8月5日
8	栃木県	佐野	41.0	2024年7月29日
8	岐阜県	美濃	41.0	2018年8月8日
8	岐阜県	金山	41.0	2018年8月6日
8	高知県	江川崎	41.0	2013年8月12日

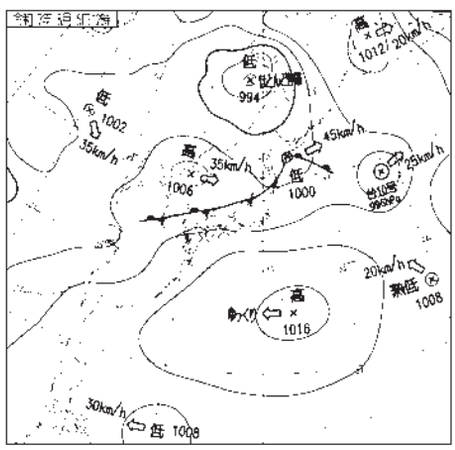


図　2025年8月5日12時の天気図

(Higuchi)

「茶室だより」　No.04　「清心庵」竹垣の設置と豪州生の来訪と

Japanese-culture

光彩館和室〔茶室〕「清心庵」では、8月26日（火）～　30日（土）に出入りの桐屋造園さんのお仕事で竹垣が設置されました（9月の登校再開時に驚いた諸君もいたのでは？）。「建仁寺垣（けんにんじがき）」とよばれる代表的な遮蔽垣で、人工竹垣ですが、「慶応通り」からの目隠しとともに茶室と外とを画する機能をもっています。内側はまだ砂利〔伊勢砂利〕のなかにマンホールやアウトリガーベース〔敷板〕が浮かぶ殺風景なものですが、いずれは伊勢砂利を敷き詰めて砂紋をつけ、枯山水を演出したいと密かな野望を抱いています。

その「清心庵」には、9月18日（木）・19日（金）に、豪州・Toowoomba Grammar School（以下「TGS」）のご一行が来庵されました。各日5･6時限にそれぞれ16名（生徒15名・教員1名）をお迎えし、最初に井之浦先生（国語科）の指導のもと、3年生自由選択科目「社会A」の履修者諸君がTGS生に浴衣を着付け、その後は上山 湧君・藤本 啓仁君（19日は高橋 亮太君・吉光 仁君）による英語での日本文化・茶の湯の紹介、浴衣姿の並木 雄大君（19日は田中 利玖君）による薄茶点前（風炉）の披露、残る諸君による呈茶と続き、最後は履修者諸君がレクチャーしてTGSの皆さんに薄茶の点茶を体験していただきました。井之浦先生のご協力と、7月にも台湾・薇閣雙語高級中學ご一行の来庵を経験している「社会A」履修者諸君（中村 仁也君は今回2日間とも手伝ってくれました！）の手際の良さ、温かいもてなしで、束の間ながらTGSの皆さんも喜んでいただけたようです。

井之浦先生・「社会A」履修者諸君、毎度ながらありがとうございます！

新たに設置された建仁寺垣（中央下）

薄茶点前を披露する田中君（美しい！）

「宴のあと」

(Ikeda)

志木の自然[文月(7月)葉月(8月)長月(9月)神無月(10月)]

Plants

ツルボ

変わった名前である．一見すると何の仲間かわかり難い．旧分類ではユリ科だったが，現在の新分類（APGⅢ）ではキジカクシ科に分類される（キジカクシ科は英語でAsparagaceae．お察しの通り代表種はアスパラガスである）．昨今，現存する生物はゲノム解析が急速に進んでおり，その系統は絶賛見直し中である（今見ている図鑑の分類は十年後には必ず修正される）．毒を含む部位である球根（鱗茎）は消炎・鎮痛効果があるため，古来，すり潰して湿布薬として使用していたらしい．

Grass

17.Jul カラスウリ, コニシキソウ

25.Jul ニガクサ, アオツヅラフジ, セイバンモロコシ

31.Jul キツネノマゴ, フトヒルムシロ

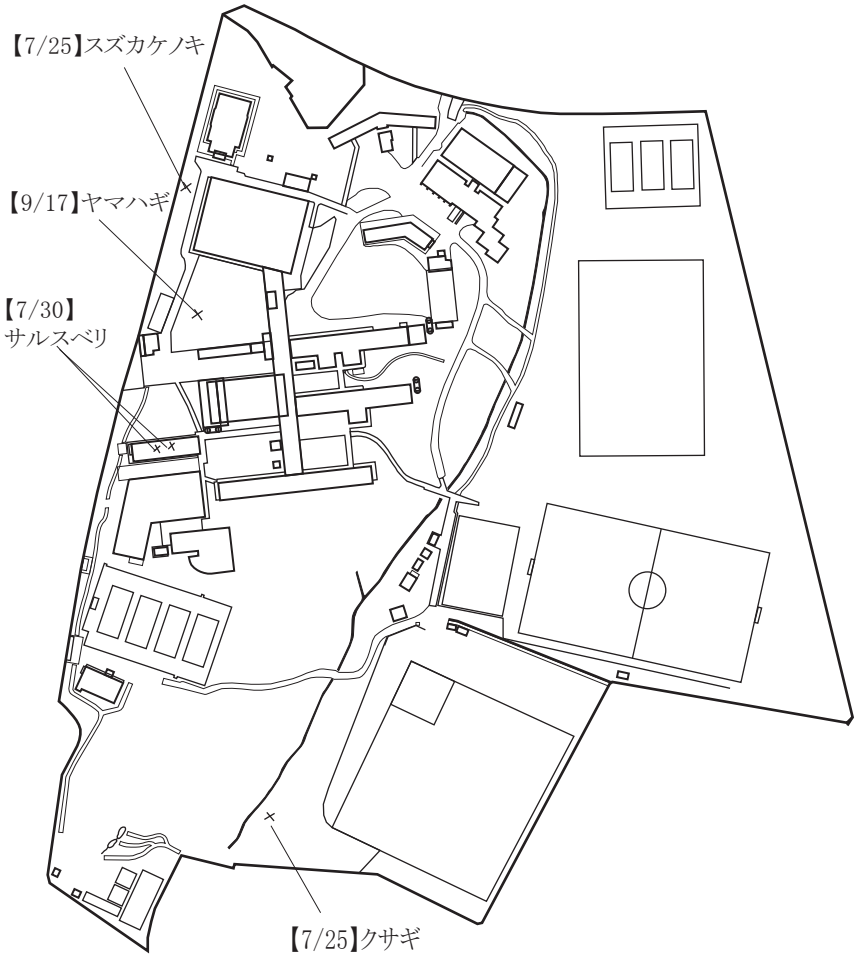
19.Aug ヒナタイノコヅチ, ヒメムカシヨモギ, キンエノコログサ

28.Aug ダンドボロギク, ヤブラン, ヒメジソ

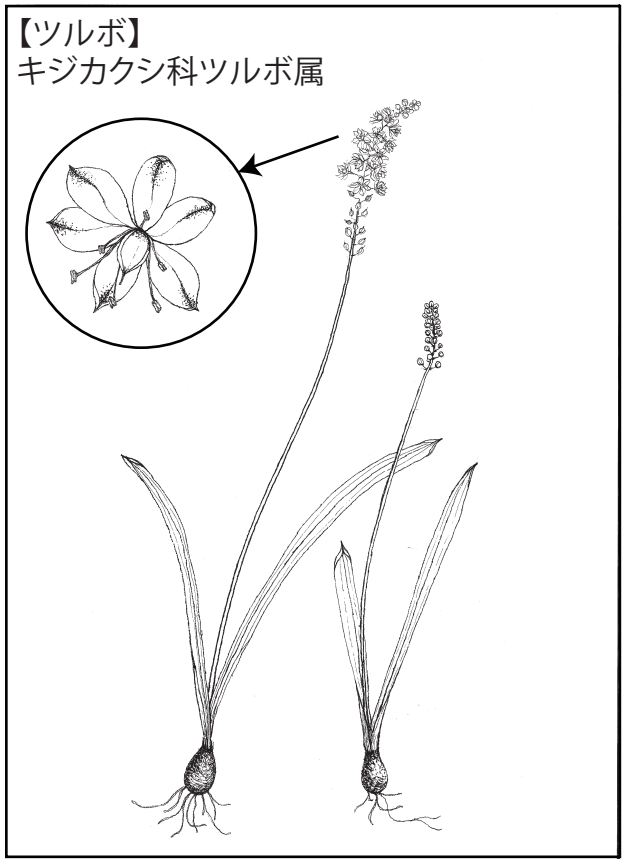
10.Sep ヒヨドリジョウゴ, オオブタクサ

17.Sep ヤブマオ, ツルボ, ヒメヨモギ, カナムグラ

Wood



(Miyahashi)



(Aramaki)

この限られた紙面では、名前の出ている植物や動物がどのようなものであるかをお示しする事は不可能です。
名前を手がかりにぜひ図書館などで一度調べてみてください。

執筆・担当区分	天文・気象	樋口　聡　(Higuchi)
	歴史・美術（博物館）	原　浩史　(Hara)
	俳句	前北　馨　(Maekita)
	日本文化（香道）	井之浦　茉里　(Inoura)
	日本文化（茶道）	池田　卓也　(Ikeda)
	植物・地質　他[&発行責任]	宮橋　裕司　(Miyahashi)
	植物画・編集	荒巻　知子　(Aramaki)